

「軍部の台頭」をテーマとした 多角的・多面的に考察する授業の実践

—ICT と協調学習を取り入れた授業作り—

地歴公民科 青山昌平

新学習指導要領にもとづいた教育課程の開始が目前に迫っている。その中で今回は新学習指導要領の、「主体的・対話的で深い学び」の実現と「多面的・多角的な考察」の箇所注目した授業の実践を目指した。生徒同士の対話と多面的・多角的な考察を満たすために、知識構成型ジグソー法を用いた授業を行った。

また、戦争に関する授業など平和学習の充実を目指している。その中で、今回は本格的に戦争に突入する前の時期に注目し、「軍部の台頭」を複数の資料から考察する授業を実施した。

<キーワード>新学習指導要領 主体的・対話的で深い学び 多面的・多角的な考察 平和学習

1. 授業の目的と背景

(1) 知識構成型ジグソー法の目的と背景

新学習指導要領では、「多面的・多角的に考察させる」ことが求められている。これを、1時間の授業の中で教科書の内容を教師が教える講義形式で実現するのは難しいと感じている。このような中で、知識構成型ジグソー法を知り、この授業手法では、複数の資料から課題に対して考察させることが可能で、「多面的・多角的に考察させる」授業の実現になると考えた。そのため、知識構成型ジグソー法を用いた授業の作成は新教育課程における授業には必須であると考え、今回の授業を実践した。また、本校では来年度の入学生より一人一台 ipad を携帯することになる。そのため、ICT を用いた授業が今まで以上にやりやすくなる。そこで今回は、知識構成型ジグソー法の中のクロストークの全体共有がより円滑に実施でき、効果が高くなるような ICT 活用の工夫を試みた。

(2) 「軍部の台頭」をテーマにした目的と背景

私は、戦争に関する授業の充実を目指している。戦争の授業などの平和学習は、戦争を二度と起こさない社会をつくっていくためにも欠かせない。その中で、戦争を二度と起こさないためには、戦争の実態を学ぶだけではなく、なぜ戦争に突入してしまったのかを考え、理解することが必要だと考えた。今回の授業のテーマとした「軍部の台頭」は、昭和時代の初期にあたる。直前の大正時代は大正デモクラシーという言葉に象徴されるように、民主主義風潮が高まった時代であった。しかし、その後昭和に突入するとまもなく軍部が台頭し、戦争に向かって行った。この時期の軍部の台頭は日本が戦争に突入した原因として欠かせない出来事である。そのため、この時期の学習を深めたいと考えた。さらに、軍部が台頭した理由を教師からの講義ではなく、生徒が資料から考察し、他者との対話から学びを深めさせることをねらいとした授業を行うため、知識構成型ジグソー法によって多面的・多角的に考察する授業を試みた。

2. 教材と授業構想

(1) 知識構成型ジグソー法について

この手法は東京大学 CoREF に開発した学習法のこと、Aronson (1978) のジグソー法とは異なる狙いや手法の特徴を持つ。Aronson の狙いが人種の融合など児童生徒の関わり合いの促進にあったのに対し、知識構成型ジグソー法の狙いは関わり合いを通して一人一人が学びを深めることにある。したがって、知識構成型ジグソーは手法としても、明確な問いを設定して、学習の前後で問いに対する回答を二回求めるなどの特徴を持つ。(「東京大学 CoREF」HP より一部抜粋)

授業展開としては、「1. 個別の問いに対する解答」、「2. エキスパート活動」、「3. ジグソー活動」、「4. クロストーク (全体共有)」、「5. 個別の問いに対する解答」という展開である。

(2) 課題設定とエキスパート活動の設定

課題は「政党政治が終了し、軍部の台頭を招いたのはなぜか?」とした。そして、エキスパート活動を「政党内閣に対する国民の支持 (1)」、「政党内閣に対する国民の支持 (2)」、「軍部の主張や行動の正当性」、「国民とメディア」の4つを設定した。

(3) クロストーク (全体共有) における ICT 活用

1) Jamboard の活用

1つのクラスでは、ジグソー活動のまとめで作成したグループによる解答の内容を iPad で撮影させ、Google の共有ホワイトボードアプリの Jamboard に画像を貼り付けさせた。これにより、教員の iPad を黒板に投影して、各グループの解答を全体で共有しやすくすることを狙った。操作の動作が鈍く、貼り付けさせるのに少々時間がかかってしまったのが課題であった。一方、この方法で共有すると、最後に個人の解答を記述する際に、自分の端末で全グループの記述を見ながら書けるため、このような方法での全体共有も有効であると感じた。

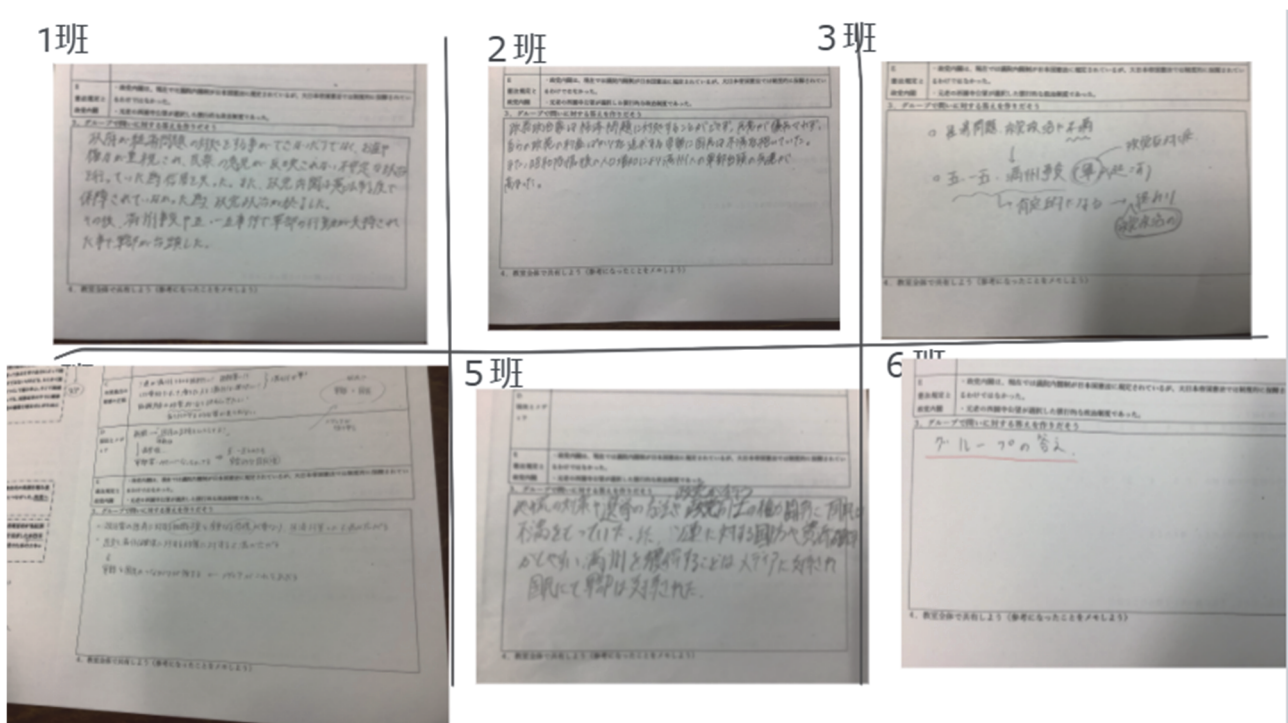


図1 Jamboard に各グループの記述を貼らした様子

2) iPad の AirDrop の利用

もう1つのクラスでは、グループ数が多く、Jamboard の利用が難しいと感じたため、撮影したグループの解答を iPad の AirDrop で教員端末に送信させ、その画像を黒板に投影してクロストークを実施した。生徒から教員に送信する作業もスムーズで、黒板に投影した写真も見やすく、全体共有としては

良い方法であった。しかし、個人の解答の時に全グループの記述を見られる状態になっていないため、個人の解答中に改めて見返すことができなかった。作業スピードや効率から考えるとこの方法がやりやすいが、生徒が全ての記述内容を見られる状態にするためには、違う工夫が求められる。

(4) 授業展開

50分で簡潔させる予定だったが、エキスパート活動とジグソー活動に時間がかかったため、次の授業も使って完結させた。そのため、以下の授業展開の時間には実際にかかった時間を（）の中に記入してある。最初の計画段階で2コマで行うように構想すると、より一層充実した授業になったと感じた。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・ 評価方法
導入 6分 (8分)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の説明 問いの確認 学習前の考察の記入 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動内容と問いを理解する。 学習前の考察を記入し、現状の自分を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> なぜ、この問いなのかを端的に説明する。 学習前の自分を把握するためなので、書ける範囲で記入させる。 	
展開 10分 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> エキスパート活動 A 政党内閣に対する国民の支持（1） B 政党内閣に対する国民の支持（2） C 軍部の主張や行動の正当性 D 国民とメディア 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートにしたがってA～Dのそれぞれのグループで取り組む。 次のジグソー活動に向けて、伝える内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視を行い、適宜声かけを行う。 	【資料活用の技能】
15分 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ジグソー活動 A～Dのメンバーが集まり、グループ内共有とグループによる考察を作成する。 考察内容をipadで撮影し、jamboardに貼り付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれが読み取ってきた内容を伝え合う。 問いに対する答えを協力して作成する。 考察内容をipadで撮影し、jamboardに貼り付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視を行い、適宜声かけを行う。 終盤にipadを配付し、jamboardに貼り付けさせる。 	【思考・判断・表現】
5分 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> クロストーク jamboardを投影し、各グループの発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表者が発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 補足しすぎないようにし、グループ毎の違いに触れて、表現や視点が広がるようにする。 	【思考・判断・表現】
まとめ 14分 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> 学習後の考察 振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 学習を踏まえて、個人の考察を記入する。 振り返りを行う。 		【思考・判断・表現】

3. 生徒の解答と振り返りと授業の反省

(1) 結果（評価と人数）

【評価規準】

チェック項目	3点	2点	1点
(1) 文章内容 (要因の数)	要因が3つ以上含まれている。	要因が2つ以上含まれている。	要因が1つ書かれている。
(2) 文章表現 (誤字脱字、正しい内容か)	誤字や脱字がなく、正しい内容でかけている。	誤字や脱字が2箇所以内かつ正しい内容で書けている。	誤字や脱字が3箇所以上ある。または、誤った内容が含まれている。
(3) 文章構成 (箇条書きか否か)	適切な接続詞を用いながら、文章が書けている。		箇条書きしている。

【結果】

評価	A		B				C		
点数	9	8	7	6	5	4	3	2	1
人数	28	15	13	6	3	0	1	0	0
合計	43人		22人				1人		

要因が全く挙げられない生徒や文章構成が間違っていた生徒はごく一部であった。6割以上がA評価を獲得し、B評価でも7点に該当した生徒が最も多く、課題に対して、多面的・多角的に考察できた生徒が多かった。しかし、内容を正しく理解できていない生徒や、文章表現が正しくない生徒がいたため、全ての生徒がA評価を獲得できるような授業方法等を検討したい。

(2) 生徒の振り返り

1) 満足度

5	4	3	2	1
30人	30人	5人	0人	0人

満足度を5段階評価させた。(5が最も良く、1が最も悪い)満足度を5または4とした生徒で大半を占めている。また、満足度の理由では、「グループの人と取り組むことで、最初分からなかったことが理解できた。」や「自分の担当で読み取った内容を他の人に伝えることが難しかったが、伝えたことで理解が深まった。」、「今までとは違う授業のやり方が新鮮で楽しかった。」といった肯定的な理由が多く、考察し理解を深める授業を行うことができた。

2) 学んだこと、考えたことなどの感想の一部抜粋

<ul style="list-style-type: none"> ・1つの出来事に対して、他にもたくさんのことが原因や影響として結びついていることが分かった。 ・自分で文章にまとめることで、より理解が深まって良いと思った。 ・経済や外交などそれぞれの分野の理由が重なり合っただけで起こってしまったことだということを改めて実感した。 ・何かが変わったきっかけは、1つの理由だけでなく、同時期に様々な問題が起きたとことによるものだと改めて分かった。 ・軍部が台頭した理由に挙げられている選挙に金を使うようになったことで不満が高まったことなどは今と似ているところがあるのではないかと思った。また、メディアの世論に対する影響が大きかったことも今に通じると思った。
--

生徒の感想から、複数の原因や影響が結びついていることを実感させるためには、生徒自身に資料を

読み取らせ、考察内容を自分で書かせることが必要であると痛感した。また、過去の出来事から学び、現在に生かそうとする生徒の感想もあり、歴史を学ぶ意義を感じさせることができた。

4. 反省やまとめ

(1) 授業の反省

資料とそこから読み取るべき内容の難易度や時間設定、評価規準は再検討が必要である。今回は読み取るべき内容のポイントをワークシートにあらかじめ記載しておいた。しかし、グループによっては読み取るのに苦労し、想定より時間がかかってしまった。生徒の資料を読み取る力を把握しておくことと向上させることを継続して実施することが必要である。また、時間設定に関しても見通しが甘かった。無理に 50 分に収めようとするのではなく、2 コマを見据えた授業作りが必要であった。そして、評価規準では、生徒の解答を想定しながら作成したが、評価規準にうまく合致しない記述もあった。このような論述などのパフォーマンス課題に対する評価はこの先に増えてくると思うため、適切な設定ができるようにしたい。

(2) 実践のまとめ

授業の取組や考察した記述内容、満足度などの感想をみると今回の実践はある程度の成果があったと言える。社会的事象は、複数の要因や影響から起こっている。そのため、歴史上の出来事を題材に多角的・多面的な考察を繰り返していくことは複雑化した現代社会を生きるためには必要不可欠である。そのため、今後もこのような実践を繰り返す必要がある。しかし、一方で今回の授業で使用した資料集めやそれをワークシートにして授業にたどり着くまでには、普段の授業以上の時間と労力を必要とした。これでは準備等に時間がかかり、何度も授業に取り入れることができず、生徒の力を伸ばすことが難しいため、単発で終わらずに継続的に取り組めるようにしたい。そのためには、課題やテーマを設定と資料準備の能力の向上に努め、今回の実践以上の授業を行っていきたい。

5. 引用・参考文献等

- 1)文部科学省 (2018)『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編 (平成 30 年 7 月)』
- 2)東京大学 CoREF (<https://coref.u-tokyo.ac.jp/>)「知識構成型ジグソー法」
- 3)平成 30 年度 神奈川県立体育センター長期研修研究報告よりワークシートデザインを参考 (https://www.pref.kanagawa.jp/documents/8197/07_1_kawabata_report.pdf)
- 4)筒井 清忠『昭和史講義: 最新研究で見る戦争への道』 筑摩書房 (2018)
- 5)筒井 清忠『戦前日本のポピュリズム 日米戦争への道』 中央公論新社 (2018)
- 6)野島 博之『謎とき日本近現代史』 講談社 (1998)

ワークシート1 (表)

5. 個人で考えよう

組 番 氏名

チェック項目	3点	2点	1点
(1) 文章内容 (要因の数)	要因が3つ以上含まれている。	要因が2つ以上含まれている。	要因が1つ書かれている。
(2) 文章表現 (漢字・数字、正しい内容か)	漢字や数字がなく、正しい内容で書かれている。	漢字や数字が2箇所以内かつ正しい内容で書かれている。	漢字や数字が3箇所以上ある。または、誤った内容が含まれている。
(3) 文章構成 (箇条書きか否か)	適切な接続詞を用いながら、文章が書かれている。		箇条書きしている。
評価	A	B	C
点数	9、8	7～4	3～1

【学習後の考察】 [点数: 評価:]

政党内閣は、現在では議院内閣制が日本国憲法に規定されているが、大日本帝国憲法では制度的に保障されているわけではなく、元老の西園寺公望が選択した慣行的な政治制度にすぎなかった。

6. 授業の振り返り

(1) 今回の授業の満足度 (5 4 3 2 1)

(理由)

(2) 自分の授業への取り組み (5 4 3 2 1)

(理由)

(3) 今回の学習から学んだこと、考えたこと

(4) 気になったこと、さらに調べたいと思ったことなど

3年 日本史B ワークシート 【「憲政の常道」はなぜ短期間で終わりを告げたのか?】

◎大正デモクラシーと呼ばれる民主主義的風潮が高まったことで、政党内閣が慣行的に続く「憲政の常道」が大正時代に姿を現し、男子普通選挙法も制定されて昭和を迎えた。しかし、この「憲政の常道」は長く続かず、テロ事件やクーデタ事件が発生するなど軍部の台頭を招いた。テロ事件やクーデタ事件が民主主義とは言いえないだろう。では、なぜ民主主義的風潮が高まった後にもこのようなことになったのか?今回はそれを考えてみよう!



本日の問い：政党政治が終了し、軍部の台頭を招いたのはなぜか?

1. 学習前の考察

【学習前の考察】

※ 本日のエキスパート活動

- A 政党内閣に対する国民の支持 (1)
- B 政党内閣に対する国民の支持 (2)
- C 軍部の主張や行動の正当性
- D 国民とメディア

問いに関する以上の四つに分かれて、今回の疑問を解決していこう。エキスパート活動で得た情報を他の人に伝えてもらうので、一人一人が責任を持って取り組みましょう。

—

組 番 氏名

ワークシート2 (裏)

3年 日本史B エキスパート活動 D:メディアと国民

【本時の問い：政党政治が終了し、軍部の台頭を招いたのはなぜか?】

1 満州事変における新聞報道の変化

- ①『大阪朝日』社説「軍部と政府」(八月八日) (高野雄)
- 『大阪朝日』は「軍部は国民の支持を得るどころか、殊に軍備縮小の願望が国民の支持を得るところである。軍部は国民の世論を無視して政府に構つたかのように見られる。……今日の軍部はどうか世の平和を欲せざるごとく、自らことごとく謀んでいるかのように疑われる。かくの如きはわが國の伝統にもとること甚だしい。軍部が政治や外交に専ら力を注ぎ、これを動かさんとするはもろて『義勇大將軍』の勢力を今日において借るとするものではないか。免れこれより甚だしい。」
- ②満州事変後の『朝日』の新聞記事の見出しや内容
- ・「自衛隊の行使」(『大阪朝日』九月二十九日)
- ・「満州に独立國の兆えあることについては疑念こそあれ、反対すべき理由はない」(高野雄、『大阪朝日』十月一日)
- ・十月十六日、第一面に大社説「満州駐屯軍の容赦を容れず」、新聞費一万円、新聞従二万圓支出。さらに新聞会を一般公募し、自社締め切り十一月五日として三万四、十二月二十三日には五〇万圓達
- ・十月二十四日、軍部取組も結露
- ・十月二十七日、半信閣衆軍司令官、村山社長に感謝状

☆ 読み取るポイント

(1) 満州事変前後で、軍部に対する新聞報道の様子はどうに変化したのか? 八月の段階では、軍部のことを _____ している。しかし、満州事変後になると、満州国については _____ の態度をとる。新聞会等の募集を呼び掛けているから、 _____ だといえる。

2. 五・一五事件の新聞報道

- 『戦前日本のポピュリズム』
- 八月六日、『国民新聞』は「五・一五騒ぎに感傷的運動・猛烈起る 全閣在野軍人も起つ」という見出しの記事を報じた。滅罪運動問題が繰り返されたのである。驚かされるのは、この記事は「全閣在野軍人も起つ」という見出しになっているが、本文では、在野軍人に関しては「風潮が濃厚」「起される模様」という推測が書かれているだけなのである。完全に期待だけから書かれた、大衆動員のための見出しなのである。
- 『神戸文藝新報』(八月二十七日)
- 滅罪運動四万突破
- 五・一五事件民間関係者に対する滅罪運動活動や機転を極めた全閣の津々から団体の形式か個人で上申書が東京地方裁判所に提出して来るが既に二十六日現在では四万を突破して職員はその整理に忙殺されている。
- 『東京日日』(九月九日) (橋本祥峰)
- 「一五騒ぎ、一五事件の一端は、何れも生命を賭して(女)うって、刑に拘げんとしたる土、彼等は死だも選げず、況んや法の審判を、然も若し彼等の刑に依りて着あらずれば、彼等は死するも厭せし、されば若し我々が國民にして、眞に彼等の心事とせば、何は免れもあれ、免れざるに依りて、社会に実行せしむることを先願とせねばならぬ。」

☆ 読み取るポイント

(1) 3つの新聞記事では、五・一五事件は (同情 批判) 的に報道されていて、この報道を受けると、(肯定 否定) 的に受け止める国民が出てきそうである。

☆ 1と2のまとめ (この文に当てはまるだけ、読み取ったことをまとめてみよう)

当時の新聞報道を見ると、軍部の行動(満州事変や五・一五事件(テロ事件))が () に報道されていて、国民の中には、軍部の行動を () だろう。つまり、メディアが軍部を支持する雰囲気を作り出した部分がある。

2. エキスパート活動とその報告

A 憲法の規定と政党内閣	
B 政党内閣に対する国民の支持	
C 軍部の主張や正当性	
D 国民とメディア	

3. グループで問いに対する答えを作りだそう【本日の問い：政党政治が終了し、軍部の台頭を招いたのはなぜか?】

【構成の検討】

班

4. 教室全体で共有しよう(参考になったことをメモしよう)